

「老人クラブ」改名提案について(案)

三老連
浅井喜孝
2021, 4, 17

1. 背景

老人クラブの起源は、長寿を祝う、平安時代に伝わったとされ、相互扶助組織の前史があり、「戦後の老人クラブ」の始まりと言われている。

戦後荒廃した社会において、「老後の幸せは自らの手で開こう」とする先覚者たちが、老後に不安を感じている老友や、老後の問題に関心を寄せる人々に呼びかけ全国各地で次々に「老人クラブ」を結成されたと聞く。

戦後76年間「老人クラブ」の名称で、先人の方が活動されて、歴史を積み上げられた事に対し感謝をしたいと思います。

2. 課題

- 1) 現代社会では、人生100歳時代と言われるが、従来から65歳以上が老人クラブに入会勧誘している。然しながら60～70歳代は現役で働いている方が多く老人クラブなんて、とんでもない、老人扱いをしてもらえるなど、お叱りを受ける。
- 2) この老人会と聞くだけで、毛嫌いをされる方が実に多い(勧誘活動で強く感じる)
- 3) この老人会の名称が会員拡大を阻害している要因の一つ。
- 4) もう一つ更に、魅力のある企画推進をしていないことが、人の集まりを阻害している。

3. 名称変更の(案)

・ 全国の老人クラブの名称変更から思い切り改名を提案したい。



* 戦後生活環境も変わり、考え方も変化している。旧態依然の名称では、時代に追従できそにない。

(昔から名は体を表すと言われ、名称は大事な姿を表す)